Copyright©2024 Bloom Creative All Rights Reserved.

BLOOMING

Magazine
of Plus Size Models in Japan

Vol.01
Winter 2024

『BLOOMING』創刊に寄せて

『BLOOMING』は
日本のプラスサイズモデルの
広報誌です。
ようやく黎明期を迎えた業界の様子や
そこで活躍するプラスサイズ女性を
ご紹介します。

日本のプラスサイズモデル業界は、いま黎明期を迎えています。この『BLOOMING』は新しい時代を創り出そうと奮闘する日本のプラスサイズ女性を、発行元である「Bloom Creative」の所属モデルに限らず広く取り上げ、その仕事ぶりや社会活動にかける想い、人柄や魅力などを紹介してゆきます。

ふくよかな女性の多くは、長い間、偏見や差別に傷つきながら社会から隠れるようにして生きてきました。アイドルやドラマの主人公はみな細身、デパートに行っても着られるサイズの服が売られていないといった経験を繰り返すうち、体の大きい女性は社会に存在しないことになっているのかと感じることすらありました。そのような考えを否定してくれるロールモデルも見当たりませんでした。

弊所が設立された 2017 年頃になると、SNS に自撮り写真を載せて発信するふくよかな女性が見られるようになり、弊所にも「ぽっちゃり女性を起用したい」というお仕事の依頼が届くようになりました。しかし、減量広告の「Before」役といったご依頼も少なくなく、弊所の理念に従いお断りすることも多くありました。体が大きいことが悪いことと扱われる状況はなお続いていたのです。

いま、時代は変わり、ファッションの世界では、一般消費者が共感して服を購入できるようリアルサイズのモデルも必要とされ、広告では、多様性への企業姿勢を示すためにプラスサイズのキャストも必要とされるようになってきました。あらゆる業界においてマーケティングの対象がマスから多様な個人に移行しつつあり、その個々人においては画一的な価値観に振り回されることなく自分にとって好ましい在り方やスタイルを探ろうという意識が高まっています。もはや、価値観の多様化や多様な個人を意識しない企業は生き残れない社会になりつつあります。

このような社会の変化によってようやく、私たちふくよかな女性も社会において存在が認められるようになってきたのです。それは、プラスサイズモデルに対する健全なビジネスニーズが生まれつつあるということも意味します。

私たちがプロフェッショナルなモデルとしてこうしたお客様のご期待に応えてゆくことがプラスサイズモデルに対するビジネスニーズを高め、またふくよかな女性のロールモデルとして活動してゆくことが、多様な個人が活躍する社会を実現することにつながりもすると信じています。

このような黎明期にあるプラスサイズモデル業界の様子やそこで活躍する人々の想いを記録し、広報誌の形で発行してゆくことで、沢山の方にプラスサイズ女性・モデルのことを知っていただきたいという思いで『BLOOMING』を創刊することにしました。

どうぞご覧ください。

『BLOOMING』発行者
Bloom Creative 代表 Yasuko

CONTENTS

VOL.01

BLOOMING

01 BLOOMING 発行者挨拶
創刊に寄せて

03 プラスサイズモデル
巻頭写真集
新しい時代の幕開け

13 YASUKOの
TODAY'S WOMAN挑戦記
私は誰で、一体何をやったのか

19 プラスサイズ女性を
立ち上がらせたのは誰？
TODAY'S WOMAN 創設者 STEVEN インタビュー

23 時代と共に変化する女性たちの
これからの話
折原ゆかりさん 独占インタビュー

27 プラスサイズモデルの
私服チェンジ大作戦
未来 & 真姫

29 BLOOM CREATIVE モデルファイル
#1 BETTY. / #2 ANDREA

31 未来のハッピーファクトリー
足の裏の痛み

32 BLOOM CREATIVE 創業者挨拶
時代の移り変わりを間近で見てきた者として

33 EDITOR'S NOTE
BLOOMING 編集長　藤 摩耶子

↓ 13
↓ 13 A

FILM NEGATIVE

FILM NEGATIVE

↓ 14
↓ 14 A

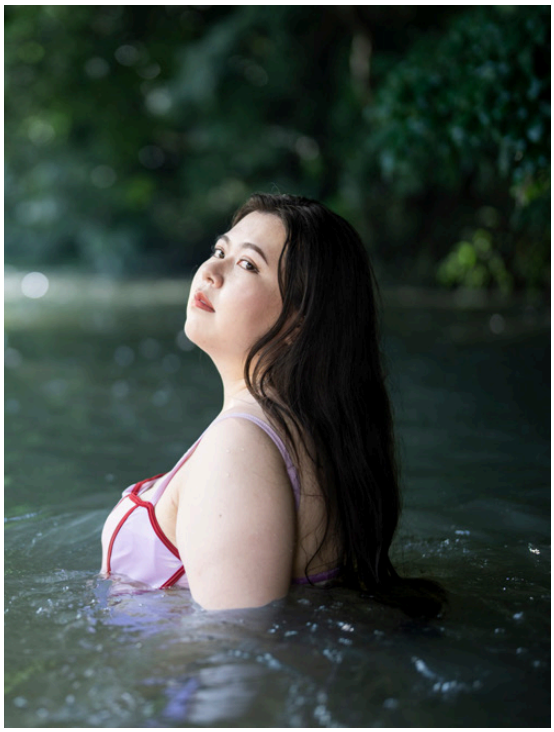
FILM NEGATIVE

新しい時代の幕開け

model:BETTY.

model:Andrea

model:未来



model:弓月 彩楓

model:南 絵茉

model:藤 摩耶子

model:真姬

model:ましゅまろ

model:船登 哀衣

Hello BLOOMING！My name is Yasuko.

私は誰で、一体何をやってきたのか？
Today's Womanに挑戦した私の話を聞いてください！

Today's Woman とはなにか

「プラスサイズ女性の……ビューティコンテスト……？」
そんな風に訝しんでいた私。
“Today's Woman” は、Steven A. Haynes さんが主催する、プラスサイズ女性のためのビューティコンテストです。2021年から毎年開催されており、「日本で初めての、かつ唯一のプラスサイズ女性を対象にしたビューティコンテスト」と公言されています。

ずっと「ぽっちゃり」で生きてきた

私は、この『Blooming』 の発行者であり、プラスサイズモデル事務所 Bloom Creative の代表も務める、ミドルエイジのプラスサイズ女性です。体型に対する偏見をなくし、すべての人が体のサイズにかかわらず自分の能力や魅力を最大限に発揮して活躍できる社会を実現するため、社会活動の一環としてこれらの活動に取り組んでいます。

このような活動を始めたのには、私の生い立ちが関係しています。中学１年生のとき、両親が離婚したことで中高一貫校の寮に入れられたのですが、その経験から「生きてゆくためには、学校生活のなかに自分の居場所や存在価値を作らなければならない」と考えるようになりました。学校という社会における自分の価値や評価を高めるために、勉強や課外活動、友達づきあいも、だいぶ無理をしてがんばったと思います。通っていたのは私立のカトリックの女子校だったので淑やかで控えめな同級生が多い中、私は、生徒会長として彼女たちを守る強いリーダーたろうと日々奮闘しました。

進学した大学では、「自我作古」（前人未踏の新しい分野に挑戦し、困難を克服して開拓する使命感を表す言葉）と「実学」という考え方に触れ、現実社会に潜む問題を発見し、新しいアプローチで解決に向けて取り組む方法を学びました。この頃から、身の周りだけでなく社会全体のあり方に関心が向き、ちょっとした「社会派」を気取って、より良い社会にするために自分がやるべきことは何かと考えるようになりました。メインで所属していたサークルは「国際問題研究会」だったのですよ、サークルっぽさ皆無ですよね！

卒業後は一般の事業会社に就職し、経営企画、企業広報に広告宣伝、商品企画、そして法務を担当してきました。いま思えば、これらの業務経験が、プラスサイズモデル事務所を運営するにあたり助けになっているように思います。

私の生活するコミュニティには体の大きい女性はほとんどいなかったのですが、30 代後半になってプラスサイズモデルをしている女性と知り合ったことで、あることに気づきました。プラスサイズ女性のなかには、思春期に体型のせいでいじめられたために社会からドロップアウトし、そこから抜け出せないために不安定な社会的状況にあったり、親から「太っていて醜い」と言われ続けたために自己肯定感を持てずに閉じこもっていたりする方が少なくないことです。彼女たちは私から見ると十分に魅力的な人物だったので、彼女た

ちがそのような呪縛から解放され、社会において能力を発揮できる方法はないものかと思っていました。

彼女たちとの交流の過程で、もうひとつ大事なことに気づきもしました。私は長い間、太っていることは自分の社会的価値を下げる欠点だと考え、その欠点をカバーするために体型・外見以外の能力を磨くことで、自分の社会的評価を高めようとしてきたのだということです。私はふくよかな女性の当事者として、本来なら「太っている人はだらしなく、セルフコントロールできず、仕事ができない」という社会の偏見に真っ向から立ち向かって「NO」と言うべきだったのに自分ひとりが成功することだけ考えてそれをしてこなかったのだと愕然としました。これがきっかけとなり、体型に対する偏見と闘うために何ができるだろうと考えはじめました。

ちょうどその頃、プラスサイズモデル事務所の代表になってくれないかというお話をいただきました。プラスサイズモデルの仕事は、体が大きいことを社会的価値に昇華させたうえで、それぞれが培ってきた能力を発揮して行う、ポジティヴな仕事です。また、モデルとして発信することで、社会に新しい価値観を提案し、同じようにふくよかな女性をエンパワーできる、可能性に満ちた活動だとも思いました。人生も後半にさしかかり、自分だけでなくすべての人がいきいきと生きるために自分の経験や能力をシェアしたいという思いが強くなっていたタイミングでもあり、プラスサイズ女性を取り巻く社会を変えたいと思って、事務所の代表を引き受けることを決め、今に至っています。

3年で得た気づきと決意

私が Today's Woman の存在を知ったのは、2021 年に友人から「初めてプラスサイズのビューティコンテストが開催されるから出場したい」と聞いたのがきっかけです。当時は「体の大きい女性を従来型の美の基準で順位づけするのか」、「ルッキズムを助長するイベントなのでは」などと訝しんでいたところもありました。そんな気持ちもありながら観に行った初回大会ですが、長いこと社会の陰で隠れるようにして生きてきたふくよかな女性たちが、自らビューティコンテストに出場することを決め、ステージで自分を表現しているのを見たのは心底爽快で、このようなチャンスがプラスサイズ女性たちにこれからも与えられるといいなと感じました。

それでも「特別に美しいプラスサイズ女性が自分のために美を競い合うコンテスト」というイメージは拭えずにいたのですが、2回目の 2022 年大会で、ベスト・スピーチ賞を受賞した藤摩耶子さん（現・ブルームクリエイティヴ所属モデル、本『Blooming』編集長）の「これからは私があなたは美しいということを証明する存在になります」という言葉を聞いたときに、Today's Woman が目指しているのは個人の美を競うことではないのだと理解しました。そして、プラスサイズ女性を代表して美しさを表現するということをたくさんのプラスサイズ女性が行えば、社会は変わるかもしれないと感じました。

3 回目の 2023 年には私はプラスサイズモデル事務所の代表になっていたので、プラスサイズ女性が美しさを表現するのを見ようと思って観覧しました。その結果わかったことは、美しさに感動するときには、体のサイズは本当に関係ないということでした。外見から伝わる美はありますが、それすら単純な造形によるものではなく、発する言葉や話し方や表情、仕草といったものを含めて内面から外に溢れ出るように相手に伝わるものであり、また本人の意思によって表現されるものであって「特別にきれいな人」だけでなく全ての人が美を体現しえるのだと実感しました。

写真中央アンドレア（Bloom Creative所属）は、2021 年大会において People's Choice Award（特別賞）を受賞。

ビューティコンテストといえば、外見の美しさを競うものだと私も思っていましたが、Today's Woman はそれだけではありません。出場者の心の大きさや生き方が見られるコンテストです。公式サイトには、「このコンテストにおけるプラスサイズとは、『あなたの生き方を魅せる』ということです。あなたには自分の美しさを理解し、そして輝く権利があります。"Today's Woman"とは、自分に優しく、人に優しく世界に可能性を与えられる人。Today's Woman Plus Size Beauty Contest は、そんなあなたを祝福する場所です。」と記載されています。この内容をきちんと理解できるようになるまで、私は 3 年かかりました。

そんな私が、4 回目にあたる 2024 年大会にエントリーしたのには、3 つの理由があります。

1 つめの理由は、Today's Woman の趣旨に共感し、同じ方向を見てプラスサイズモデル事務所の活動をしている自分や仲間のことをたくさんの人に知ってもらいたいと思ったからです。私が Todays' Woman に出場することで、そのような活動を多くの方に知っていただき、共感いただき、形は違っても同じ方向で活動する仲間を増やしたいと思いました。

2 つめの理由は、私自身が、自分の美しさを表現し、それを人に伝えるということに挑戦したかったからです。プラスサイズモデル事務所の代表として、表情やしぐさなど、顔の造りや体型以外の外見を通して表現できる美しさがあることを、ルッキズムとは異なる文脈でモデルたちに説いているにもかかわらず、どこか心の奥底に「モデルは特別美しい人であって、自分はモデルではない」という思いがあったと思います。「モデルは自分とは違う」と線引きをすることで、自分の美しさを大切にすること、表現することから逃げていたように思うのです。コンテストへの挑戦を通して、自分の美しさに目を向け、人に伝わるよう表現することに挑戦したいと思いました。

3 つめの理由は、ステージ上で輝いていた過去 3 年間のファイナリストのように私も輝き、それによって幅広い年齢のプラスサイズ女性を鼓舞したいと思ったからです。私が彼女たちに勇気づけられたように、私も「太っているから／年をとっているから美しくなれない」と諦めているプラスサイズ女性たちに、誰もが美しくあれると伝えたいと思いました。

参加したからこその気づき

2024 年大会は、春にエントリーの募集と選考がありました。夏に、ファイナリストを対象としたビューティキャンプやワークショップが複数回あり、9 月の大会本番に向けて皆で助け合いながら準備を進めました。

ビューティキャンプと聞くと、外見を磨くテクニックを学ぶ合宿のようなものをイメージしませんか？私はそうでした。Today's Woman のビューティキャンプは、ファイナリストとしての心得を学んだり、美容というより心身の健康について学んだり、大会本番の練習をしたりといったことが中心でした。たくさんの忘れられない出来事がありましたが、特に印象的だったことを 4 つに絞ってお話しします。

1 つめは、初日にドキドキしながら開始時刻を待っていると、Steven が "Wow…beautiful…" と感激の涙を浮かべながら入ってきて、満面のスマイルでファイナリストひとりひとりと握手してくれたこと。感動しました。その一瞬で、私たちがこれまでどれだけ体型ゆえに虐げられてきたのか、美しさを表現する権利を奪われてきたのかということが思い起こされて胸が熱くなり、ここにいるのは、競い合う相手ではなく、一緒に輝かしい未来に続く扉を開ける仲間なのだと感じました。Steven は、ひとりひとりの良いところをちゃんと見てくれて、私には笑顔が太陽みたいだからと、会うたびに "You are my sunshine" と微笑みかけてくれたのですが、それがどれだけ私を励ましてくれたかわかりません。

2 つめは、世界的な写真家であるレスリー・キーさんがプロデュースするショップ "LuvLEE" での、ファッションショーイベント。私たちプラスサイズ女性は、ステージで大勢の人に注目されることに慣れていないし、そもそも初見の観客の前で自分を表現するというのは怖いものです。私は「うわー、どうしよう！」と緊張しながら自分の出番を待っていたのですが、ほぼ全てのファイナリストが初めてファッションショーに出たのにもかかわらず、堂々とポージングし、笑顔で楽しそうに自分を表現しているのを見て、「ひぃぃ、みんなすごい！私もあんな風に、自分を解放して表現してみたい！」と勇気づけられました。この頃から、仲間のことを「すごいな」と尊敬する気持ちが高まってゆきました。この

ビューティーキャンプでは、ファッションショーで歩く場面も。レスリー・キーさんがプロデュースするショップ"LuvLEE"にて。

スタジオを飛び出し、原宿の竹下通りへ。

ときの映像は、ブルームクリエイティヴの SNS で公開していますのでご覧ください。

3 つめは、ウォーキングのレッスン中に、Steven がいきなり「みんな私についてきて！」と言いながらスタジオの外に出てゆき、皆で一列になって原宿竹下通りをねり歩いたことです。観光客でごったがえす真昼間の竹下通りを、謎のイブニングドレス姿のプラスサイズ女性たちが、手を振りながら歩いていたわけなので、かなり不思議な光景だったと思いますが、「一緒に写真を撮って！」と言ってきてくれる外国人観光客がいたりして、とてもワクワクしました。ドキドキもしましたが、おかげで度胸がついた気がします。

4 つめは、2023 年大会グランプリの Yukari さんと Yasue さんによるワークショップで、皆で泣いたことです。Yukari さんは 3 回目、Yasue さんは 2 回目の挑戦でグランプリを獲得されたわけですが、涙ながらに、どれだけ Today's Woman の仲間とのフレンドシップが貴重なものか、そしてそれが自分を何度もコンテストに引き戻してくれたという話をしてくれました。そのとき私も皆と一緒に涙を流しながら、私たちは日本社会においてはマイノリティで、体型ゆえの辛さを共感する相手が身近にいなかったこと、やっと一緒に闘える仲間ができたことを噛み締めました。

ところで、エントリーする前に、過去のファイナリストたちが「Today's Woman で得たものは、友達」と言っている動画をいくつも見たのですが、正直に言うと「なぜコンテストに出て友達？」という不思議な気持ちでいました。ところが、大会が終わったとき、同じ質問に私も「仲間」と答えていました。実は、準備期間中に骨折したり、大会の 1 週間ほど前に結石を砕く手術をしたりと、体調の悪い日が続きました。そのような中、前年グランプリとファイナリスト仲間たちが、それぞれの得意を活かして私のことを助けてくれたのです。入院前後に自己 PR のための思考整理を手伝ってくれたり、深夜までスピーチについてアドバイスしてくれたり、ドレスを一緒に考えてくれたり、痛みが和らぐよう癒してくれたり。自分自身が大変なときに、皆がそうやって助けてくれたのです。

ファイナリスト仲間以外も、体調が悪く準備がままならない私を心配して、いろいろと手伝ってくれました。事務所のモデルレッスンの講師をお願いしている彩希子先生は、ご厚意から、ステージでの表現についてきめ細かいご指導をしてくださいましたし、所属モデルたちは、やれこっちが似合うあっちが受けそうとドレスやヘアメイクをアドバイスしてくれました。「Yasuko は昔からびっくりするくらい手先が不器用なんだから。もっと早く頼ってよ！」と言いながら、手縫いでドレスの調整をしてくれた友人もいました。

このようにして、たくさんの方々に支えながら、9 月 23 日の大会本番に向けて準備を進めました。

いざ、ステージで光を浴びて

いよいよ大会当日。朝からとても嬉しいことがありました。7 月のオフィシャルフォト撮影でヘアメイクを担当してくれた山野美容専門学校の学生さん方とまた会えたのです！彼女たちは、授業の一環で来ているのではなく、学校の募集に自主的に応募して、休日を使って来てくれていたのですが、「応募するとき、前回と同じ方を担当したいか？という質問項目があって、私たち皆、Yasuko さんを担当したいって書いたのですよ！会いたかったです！」と言ってくれて、とても嬉しかったです。彼女たちは、完璧にヘアメイクしてくれただけではなく、舞台裏でずっと「とってもきれいなので絶対大丈夫です！」「ヘアメイクのことは私たちを信じて任せて、審査に集中してください！」と応援してくれて、運命共同体のような気持ちにさえなりました。

会場には、彩希子先生、所属モデルたち、そして友人が応援に駆けつけてくれました。友人は「やすこ LOVE」とデコレーションしたうちわを用意し、所属モデルたちは事務所ロゴが入ったオリジナル T シャツを着て応援してくれました。大会中ずっと「やすこー！」と叫びながら笑顔で応援してくれて、どんなに励みになったかわかりません。想定を超えて感動したのは、皆が、私だけでなくファイナリスト全員を応援してくれたことです。他のファイナリストのスピーチを聞いて涙を流す方もいたと聞いて、こちらが感動させられました。

友人が用意してくれた「やすこLOVE」応援うちわ

ウォーキング審査では、スポットライトを浴びた瞬間、頭が真っ白になり、事前に「こういうポージングをしよう」などと準備していたことがすべて飛んでしまいました。でも、いつも彩希子先生が「失敗しても決して顔に出さないように。失敗を顔に出すのは意識が自分だけに向いているということ。クライアントにも観客にもあなたの反省など関係ない。Show must go on よ！」とおっしゃっていることを思い出し、最後まで笑顔で歩ききりました。これを見た若いプラスサイズ女性が、後日、「Yasuko さん、素敵でした。かっこよくて、私も来年出たいと思いました。」というメッセージをくれて、私がやりたかったことが少しはできたのかもしれないと感じて嬉しかったです。

スピーチ審査の内容は、コンテストへの参加を決めた理由でもお話ししたとおり、たくさんのプラスサイズ女性に、私たちのような活動をしている人がいることを知っていただき、自分なりの方法で社会の中で輝いてほしいという気持ちを込めて、ふくよかな女性がふくよかな女性をエンパワーする循環を作り出したいという内容にしました。私のスピーチの映像は、ブルームクリエイティヴの SNS で公開していますので、どうぞご覧ください。

審査の結果、ありがたいことに 5 位入賞という結果を頂戴しました。TOP5 に名前を呼んでいただいた瞬間、会場に応援にきてくれていた皆が「わー！」と歓声を上げて喜んでくれて胸が熱くなりました。

Feel the love

大会から 3 週間程経って、手術後に体内に留置されていたステントを抜去したのですが、ずっと続いていた体の強い痛みからやっと解放され、この『Blooming』の確認作業に着手したり、コンテストのことを振り返ったりできるようになりました。

Today's Woman に参加することで得たものは本当に多かったのですが、なかでも強く感じるのは、ファイナリストやスタッフという素晴らしい仲間と出会えたことに対する感謝と、準備期間から支えてくれた彩希子先生、所属モデルたち、家族、友人たちを大切に思う気持ちです。コンテストを通して彼らの深い愛情を肌身ではっきりと感じられたことや自分がその愛情を信じられ受け入れられると認識できたことは、私個人やブルームクリエイティヴの大きな財産になったと思います。今年の大会のテーマは "Feel the love" で、私は大会で表現することでこれを皆に伝えたいと思っていたのですが、奇しくも私自身が愛を感じる結果となりました。感じた愛は私も皆にシェアしてゆきます。

もしかしたら来年も Today's Woman に挑戦するかもしれません。さらに将来の夢としては、いつか、ブルームクリエイティヴや『Blooming』としてスポンサーシップに参加して、Today's Woman を応援することでたくさんのプラスサイズ女性をエンパワーしたいとも思います。そして勇気づけられた女性たちが今度は勇気づける側にまわる、そういう循環を作ってゆきたいです。

BLOOMING は
すべての人が花開く
自分の美しさを楽しむための
フリーマガジンです。

BLOOMING

創刊号をお読みいただき、誠にありがとうございます。
よりみなさまに楽しんでいただける誌面を作るため
BLOOMING創刊号のご感想を募集しております。
以下のQRコードより、回答をよろしくお願いします。

感想フォーム： https://x.gd/DJjx4

BLOOMING

フリーマガジンBLOOMINGでは
・広告掲載を希望するスポンサー様
・取材の依頼（BLOOMINGに取材をしてほしい、企業様や個人を問わず）
を募集しております。

info@pocchari-model.comまで
ご相談をお待ちしております。

日本のプラスサイズ女性を立ち上がらせたのは一体誰？
好きにならずにいられない！ スティーブン・ヘインズの魅力に迫る

Steven A. Haynes

アメリカ・サンフランシスコ出身。
TV、映画、CM、雑誌、イベント等で活躍するマルチタレント。
2020年8月、エグゼクティブプロデューサーを務めた“You Decide（息子のままで女子になる）”が、 Los Angeles Diversity Film Festivalで、邦画初のドキュメンタリー賞を受賞。世界一の日本人女性を4名輩出した（ミス・インターナショナル吉松育美や、ミス・インターナショナルクイーンはるな愛、元ミス・ユニバースパフォーミングパートナー）ビューティー界のカリスマでもある。
2021年、日本初となるプラスサイズのビューティーコンテスト“Today's Woman”を始める。

Steven A. Haynes 公式HPより一部抜粋
https://www.steven-smile.com/

美は1種類ではありません。
美を見せるのなら平等に全ての美を見せるべき。

あなたのことをもっとよく知りたいです。Stevenのことを、ミステリアスに感じていて。

ミステリアス？　なぜでしょう。でも、私のことをもっと知りたいというのは、ポジティブな気持ちだと思うので嬉しいです。

私は華やかで特別な人だと思われがちですが、実際は普通の人です。「Stevenはひとより優れている」と言われると、居心地が悪くて。私は、全ての人が同じように平等に扱われてほしいと思うし、そうすれば世の中のあらゆることが可能になると思っています。人を自分より上だと考えたり、下だと考えたりしはじめたときは、まず自分自身を見つめるべきです。人をさげすんだり、けなしたりするのは自分自身に抱いている恐怖心によるものだからです。

福沢諭吉の言葉で、「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」というものがありますが、Stevenの考え方には親和性を感じます。

英語にも同じような意味の言葉がありますよ。この考え方は世界を平和にしますよね。

私は6人兄弟ですが、両親はこの考えのもと、私たちひとりひとりを常にフェアに育ててくれましたし、平等とは何かを教えてくれました。

両親は、アメリカで公民権運動の時代を過ごしました。肌の色で使ってよいトイレ、通う学校、食事してよい店までが分けられていた時代を経験しているのです。しかし彼らは私たち兄弟に「そういう扱いをする人がいるからといって、全ての人がそうだということではない。白人は皆悪い人だと考えるのも間違い。肌の色、体のサイズ、お金持ちかどうかといったことで判断せず、ひとりひとりをオープンマインドで平等に見るべき。そして、自分が人にこう扱ってほしいと思うように人に接しなさい。」と教えてくれました。

私は道を歩いているときに周りをよく見ているのですが、警察が誰かに職務質問しているのを見ると、本当に平等に質問しているのか確認します。先日は、私自身が「ちょっと確認させてください。ランダムチェック」と言われましたが、私の前に数名の外国人が通り過ぎており、本当にランダムチェックなら彼ら全員にも職務質問をするのがフェアなのにと、嫌な思いをしました。

そういうときには、絶対に声に出して「おかしい」と伝えるようにしています。人をグループ分けしたり外見で判断したりして扱いを変えるのは間違っています。ひとりひとりを平等に扱わなければなりません。

同じことがビューティーコンテストにおいても言えます。私は、ミス・ユニバースから始まり、いろいろなビューティーコンテストに携わってきました。どのコンテストの参加者も美しく、賞賛されるべきだと思います。ただ、従来のコンテストは1種類の女性しか見せていません。それはフェアなことではないですよね。

美は1種類ではありません。人によって定義や感じ方も異なります。美を見せるのなら平等に全ての美を見せるべき。美しさは内面から出てくるもので、人をどう扱うかにあるのです。美とは、オープンな心・考え方・愛を意味します。コンテストでも、全ての人がそういう点で平等に審査されるべきです。

本来そうあるべきですよね。

世の中の考え方として、まだまだ美しさの形は1つだという風潮があるかと思います。

Stevenはプラスサイズ女性当事者ではないのに、なぜプラスサイズ女性の存在を見つけられたのでしょうか。

ビューティフル・クエスチョン。日本で「プラスサイズ」と呼ばれている体型は、世界中のほとんどの国ではプラスサイズではありません。日本の基準で言ったらアメリカではみんなプラスサイズですよ！我々はスタンダードサイズと呼んでいますが。

人生はダンス。
みんなダンスするべき

私は今までたくさんのビューティーコンテストに携わってきましたが、プラスサイズの女性を見かけるのは、お客さんだったり、ヘアメイクの人だったり、誰かのご両親だったりで、ステージ上で見かけることはありませんでした。彼女たちは、ステージの上に羨望の眼差しを向けながら拍手していましたが、なぜステージの下にいる彼女たちには拍手がないんだろうと不思議に思っていました。私には、ビューティーコンテストの主流に乗るべきか、自分でコンテストを作るべきかという２つの選択肢があって、後者を選んだのが Today's Woman の始まりです。「プラスサイズのビューティーコンテスト」と言っても最初は誰も理解してくれませんでしたが、仲のいい友達（カズキ、マリコ、ススム、ダイゴ、ケイキ）が開催に向けて協力してくれて、第１回目の大会ができた時は本当に嬉しかったです。

両親がよく言っていたことですが、私たちはみんな同じで、何も違いはなく、人を分けるものがあるとしたら苗字だけです。例えば、30 人が集まったら、誰か親戚がいるかもしれません。私の兄弟は日本人と結婚しているので、私には日本人の親戚もいます。おばあちゃんは千葉に住んでいるし！　もしかしたら、私とあなたの 30 人先の子孫たちは親戚になるかもしれない。 そういった意味でも私たちの間に全然違いはないです。難しく考える必要はありません。

私の人生観は、「人生はダンス。みんなダンスするべき」です。人生を難しくしているのは、自分たちの決断です。
日本のような国に生きていることは、とてもラッキーなことです。そのラッキーは、人とシェアしなければなりません。そうして全ての人が平等になるようにすべきで、そうすればみんなが何かを成し遂げることができるはずです。そういうシェアができるか、どのように人をケアしたり扱ったりするかで人は評価されるべきです。体のサイズや外見は関係ありません。

我々のコンテストは、年ごとにテーマを決めています。2024 年のテーマは「Feel the Love」。“愛を感じる”です。お互いに愛を感じ合えれば、みんなが愛を感じることができるのだから。
また、我々には、ディスコ（DISCO）という価値観があります。ダイバーシティ（多様性）の D、インディペンデント（自立）の I、スマイル（笑顔）の S、コンフィデンス（信頼）の C、オポチュニティー（好機）の O でディスコです。

美を仕事にしようと思ったきっかけは？

最初はダンサーとして日本に来ました。 休日、母親と歩いていたところ、１人の女性が「いいお尻！」と話しかけてきました。母は振り返り、「私の息子のお尻だよ！」と返事をしました。その女性こそが、元ミス・ユニバース・ジャパン主宰のイネス・リグロンさんでした。
彼女は私に「あなたとってもプリティね」と言い、母は「ありがとう」と答えました。その時に、ミス・ユニバースの世界優勝者のエスコートになってほしいと誘われたのです。私は彼女の誘いを引き受けました。
大会当日、エスコートをした世界優勝者はあまり自信がなさそうだったので、舞台裏で勇気づけてあげたりしました。
それを見たイネスさんに「あなたすてきね。私と働いてみない？」と打診されたのが始まりです。

イネスさんの考え方は母と似ていて、彼女からも、ものの見方や人への平等な接し方などたくさんのことを教わりました。
その後、イネスさんと私は TV の仕事もしました。ちょうどその頃、はるな愛さんが Miss International Queen（世界最大規模のトランスウーマンたちによるビューティーコンテスト）に出場するということで、TV 番組が密着取材をしていて、彼女をトレーニングする人を探していました。
私がミス・ユニバースのコンテスタントにレッスンしているのを見たテレビ局の人が、「あの黒人を（はるな愛さんのトレーナーとして）使いたい」と電話をかけてきたのです。イネスさんは「あの黒人じゃないよ。Steven だよ。」と激怒していました。そうして私ははるな愛さんのトレーニングを引き受けて、彼女は世界大会で優勝し TV などで取り上げられました。それによってたくさんのコンテスト関係者が私に仕事を依頼してくるようになったのです。それからミス・ユニバースだけでなく色々なコンテストのビューティーキャンプや審査も手伝うようになり、その後ミス・スプラナショナル・ジャパン（世界トップ５のミスコンテストの日本大会）を自分で始めようと決めオーナー兼ナショナルディレクターを務めました。

美には多様性がありますが、コンテストとなるとグランプリを必ず１人選ばないといけないですよね。

１人だけを選ぶのは辛いことです。まずコンテストのファイナリストたちに最初に伝えていることが、トライしている時点で全員が優勝者だということ。これが１番重要なことです。なぜなら、ステージに立ち、ステージを見ているたくさんの女性たちに自信に満ちた姿を見せると、見ている女性たちの自信も高められるからです。そういう意味で、コンテストに出場するということは、世界中の女性たちの代表でもあります。

公私共に Stevenと親しいToday's Woman 運営メンバーのススムさん。インタビュー当日は、通訳も務めてくださいました。

コンテストで私が最も重視して見ているところは、笑顔ですね。笑顔を見ると見ている人もみんな笑顔になるから。
笑顔でステージを歩けば、世界は明るくなり、人々の気持ちも明るくなって、みんな友達だということが伝わります。誰かを蹴落とそうとしてステージに上がるのではなく、心からの笑顔でステージに現れてほしい。笑顔は平和と温かい気持ちをもたらします。ステージで転んでも、パンプスが脱げても、笑顔でいれば大丈夫。本当に笑顔が1番大切ですね。

日本でコンテストを開催するにあたって、コミュニケーションの壁を感じることはありましたか。

ミスコミュニケーションについては、話し出したら3時間くらいかかってしまいます（笑）。特に大変なのは、スポンサーを探すときです。なぜ私たちがプラスサイズのコンテストをしているかを理解してもらうのは簡単ではありません。「プラスサイズコンテストのスポンサーになることで、我々にどのようなメリットがありますか？」という質問をよくいただきます。私たちは、自分が得るもののことばかり考えるのではなく、私たちがシェアできるもののことを考えるべきだと思います。
ですが、スポンサーがなかなか見つからなくても、それが理由でコンテストをやめるつもりはありません。なぜなら、ステージ上で輝き、本当の美しさを表現している女性たちの姿を見ることができたり、家族がそれを誇りに思う様子、友人たちのハッピーな様子を目にすることができたりすることを考えると、やめることにそれ以上の価値はないからです。

世界と日本の美しさに違いはあるように感じますか。

私の母国アメリカと比較すると、アメリカ人はもっとファッションにオープンだと思います。何を着てもよいという価値観です。日本人はそれに比べると、保守的で恥ずかしがりですね。自分自身であることを恐れてはいけません。自分自身を隠してしまうことになるから。自分を隠していると、自分の兄弟や子どもたちも自分を隠すようになり、周りに影響が出てきます。

女性に敬意を払わなくてはいけません。私たちは皆、女性から生まれてきたのだから。

10年後、Today's Womanが続いていたら、プラスサイズの女性たちはどうなっていると思いますか。

他の国でもToday's Womanを開催しようと考えています。まずは日本でどうスタートしたのかを世界に見せたいです。これはジョークではなく現実です。このコンテストには真の美があり、尊重されるべきです。サイズがどうであれ、全ての女性に敬意を払わなくてはいけません。私たちは皆、女性から生まれてきたのだから。
10年後には、世界に、本当の美とは何か、人生を真の意味で理解するとはどういうことかを知ってほしい。そして全ての人が平等に扱われるようになってほしいです。
Today's WomanのTodayには、明日が来ればその日がTodayだし、その次の日も、10年後に目が覚めた朝もTodayだという意味があります。

次にやろうとしていることはありますか。

2つあります。1つ目は、高齢者向けのエクササイズです。
日本のことは大好きですが、電車の中で高齢者に席を譲らない様子を見ると、いつも胸が痛みます。実際にその場にいたら、席を代わってあげるよう声をかけるようにしています。これは、高齢者に対する尊敬の気持ちがあるかという問題で、大事なことです。
もう1つのプロジェクトは、セックスについての本を書くことです。なぜなら、日本人はセックスという言葉を恐れているから。（大きな声で）セーックス！　今本を4冊出していますが、出版社はこの本に対してはナーバスです。エッチな本ではないのに、変ですね。
あなたに質問です。我々はどうやって生まれてきましたか？

セックス。

その通り！　メイクラブは美しい創造行動なのです。だから私の本では、メイクラブの美しさについて書きたいと思っています。
今、我々の人口はどんどん減り、文化が廃れそうになっていますよね。人口増やすには、愛が必要です。メイクラブして、お互いを正しく扱い、世界に命を生み出さないと。それを広めていくことが、私の義務だと思っています。
あなたに何を質問されても、私の回答は「なぜやらないの？」に尽きるでしょう。プラスサイズとは、「より美しい心」、「人とシェアするより大きな心」という意味にすぎません。体型のことではないのです。プラスサイズであろうとなかろうと、みんな平等に扱われるべきですし、他の人と同じように見られるべきですし、みんなのように堂々と道を歩くべきです。
私の名前はSteven。SとTを抜くと、EVEN（平等）になります。

時には涙ぐみながらも、終始和やかな雰囲気でインタビューに応じてくださったSteven。
この度はありがとうございました！

折原ゆかり

Today's Woman
出場３年目にしてグランプリ！
折原ゆかりが語る
時代と共に変化する女性達の

これからの話。

プラスサイズモデル兼BLOOMING編集長
藤摩耶子が独占インタビュー

折原　ゆかり
Yukari Orihara

セクシー女優。
2021年、2022年、2023年と3年連続
Today's Woman Plus Size Beauty
Contestに出場。
2023年、グランプリに輝く。

Interview with Yukari Orihara

摩耶子　まずは自己紹介をお願いします。
ゆかり　職業はセクシー女優をしていて、今年で17年目になります。今回このインタビューを受けるご縁をいただいたのは、Steven A. Haynes 氏が開催したToday's Womanというプラスサイズビューティーコンテストに3年連続で出場して、昨年、エレガントクラスのグランプリにあたるThe Most Elegantという賞をいただいたからです。
摩耶子　グランプリとして１年間の任期終了、お疲れさまでした。ゆかりさんと私は、Today's Woman の2022年大会に一緒に出場してから仲良くさせていただいているのですよね。それからずっとご活躍を拝見していましたが、特に2023年大会のスピーチでゆかりさんが語られた「職業や体型で、あなたの幸せは決して奪われない」という言葉が胸に響きました。3度の出場を通して改めて伝えたいメッセージを教えてください。
ゆかり　私は自分の思いを伝えることを苦手としていて、1番の課題はスピーチでした。1年目のスピーチでは、自分がセクシー女優としてふくよかな女性が魅力的であるという実績を作ってきたという話をしました。ところが大会後に振り返ってみると、あまり自分の気持ちが入っていないことに気づきました。

2年目には、気持ちを入れて、差別や偏見に苦しんでいる人を助けたいというスピーチをしました。でも、やはり思うような結果は得られませんでした。

3年目にまた挑戦することになったときに、自分は誰に何を伝えたいのかなと改めて考えました。私、2年目の大会で、摩耶子が大会直前に亡くなったお父様への気持ちをスピーチで話していたのを聞いて涙が止まらなかったの。そのときに誰に何を伝えたいのかがやっとわかって。私が今幸せであることを過去の自分に伝えたいと思ったのが3年目のスピーチでした。

人に何を言われても自分は幸せですということが、過去の自分と同じように悩んでいる人にも響けばいいなと思いました。

摩耶子　Today's Womanに出ようと思ったきっかけを教えてください。
ゆかり　Today's Womanの取材をした記者の方から大会の存在を聞いたのが最初でした。その方が私の所属している事務所に「ゆかりさんっていうプラスサイズの女優さんがいらっしゃったよね？　こういうコンテストがあるようだけれど……」とわざわざ連絡をくださって。

普通、私たちセクシー女優はビューティーコンテストに出られません。今は多様性が重視される世の中なので、エントリーだけはさせていただけるかもしれませんが、選考に通って大会に出場できることはほぼありませんし、出場できたとしても受賞などの成果は得られません。

そのことを記者の方に話したら、大会主催者であるStevenに「セクシー女優の方が応募しても大丈夫ですか？」と聞いてくださったの。

そしたらStevenが「僕はそういう偏見や差別は大嫌い。どうぞウェルカムってその方に伝えて。」と話していたと聞いて。ファイナリストになれるかは自分の実力次第だから、チャンスがあるのなら挑戦したいと思ったのがきっかけですね。

それまでは、そういった場に出ることを控えていました。断られたら傷つくのは自分だし、今思えばチャレンジすることも諦めていたのではないかな、と。

仮にコンテストに出場できたとしても、自分の実力はさておき、正当な評価をいただけないのではないかと不安でした。グランプリにはなれないのではないか、とも。そういう気持ちで臨んだので、最初は参加させていただけただけでありがたいと思っていて、絶対グランプリをめざそうとは思いませんでした。大会の運営の方たちに対してというより、世間の評価を信用しきれていなかったかな。
摩耶子　大会に出たことで、ゆかりさんの職業に対する世の中の考え方に変化はあったように感じますか。
ゆかり　2回目の大会の後、「あんなにがんばってもグランプリになれないのだから、もしかしたらなにかあるかもね」と言ってくださった仕事先の先輩がいて。私ももしかしたらそうなのかもって思ってしまったのですよね。でも、3年目でグランプリになれたことで、そういう風に思い込んでいたことが恥ずかしくなりました。自分が思っているほど、世の中の人はそのようには思っていないのかもと考えるようになりましたね。

摩耶子　ゆかりさんの魅力は、優しくて包容力のあるお人柄だと思います。2022年大会のビューティーキャンプの集合写真撮影で、ゆかりさんの隣に立たせていただいた時のことが印象深くて。それまでお話ししたことがなかったのですが、私の自己紹介を覚えていてくださり、笑顔で優しく「沖縄から来たんだよね、会いに行くね。」と声をかけていただいて。その後本当に会いに来てくださり、嬉しかったです。

2022年Today's Woman　特別賞を受賞
左：ゆかりさん　右：藤摩耶子

ゆかり　ヒールで足が痛くてプルプルしているときにね。
摩耶子　足が痛いときでも、自分の辛さより周りを見てくださるのですよね。そういうお人柄が、2年連続でファイナリストのうち最もフレンドシップを体現した方に与えられる特別賞を受賞されたという結果にも表れているのだと思います。

摩耶子　今後の活動について考えていることを教えてください。
ゆかり　本業であるセクシー女優としての活動以外に目を向けることが多くなりました。例えば Today's Woman のファイナリストたちの話を聞いているうちに、みんなプラスサイズモデルを目指していたりするので、自分もモデルとして大きいサイズの服を発信してゆきたいと思ったり。そのように周りの人の活動を自分に置き換えて考えることが多くなりました。
摩耶子　すてきですね。ゆかりさんがモデルやいろいろなことに挑戦される姿を見てみたいです。
ゆかり　他には、Today's Woman に出たことで、困っている人の助けになりたいという自分の気持ちに気がつきました。私たちの体型って、靴が合わなかったり、どういう服が体型に合うかわからなかったり、ドレスのときにどういう下着をつけたらよいかわからなかったり、困ることがたくさんあるじゃない。私はそういった知識が多い方なので、そういう人の力になりたいと思って、大会でファイナリスト仲間を手伝ったりしました。また、この前ある方とお話ししていたら「ゆかりさんは、メンタル面を支えることにもすごく長けてると思いますよ。」と言っていただけました。大きく括れば「誰かの支えになりたい」なのですが、そういうことをしてゆきたいです。
摩耶子　人のためになることをいつも考えられていますよね。どのようにしてゆかりさんのお人柄が作られたのか知りたいです。
ゆかり　以前の職場で長いこと集団生活をしていたことがあるのです。職場なので好きな人もそうでもない人もいるわけですが、ずっと一緒に仕事も生活もするの。だからとにかく楽しく毎日を過ごすにはどうしたらよいだろうと考えているうちに、人の良いところを見つけたり、困っていることを察知する人間関係のスキルや、楽しいことを見つけたり、それをみんなで楽しんだりするスキルが身についたのかもしれません。

その時に、初めてボディーポジティブという考え方を学びました。——留学先のオーストラリアにて

摩耶子　ゆかりさんのコミュニケーションスキルはそういった集団生活で培われたものなのですね。
－体型は昔から今のような感じでしたか？
ゆかり　19～21歳まで7号の制服を着ていました。その後セクシー女優としてデビューするまでの間に、少しずつサイズアップしていったのです。20代後半の頃、外国に興味があってオーストラリアに留学をしたのですが、そのときに、初めてボディーポジティブという考え方を学びました。日本にはまだそういう言葉はありませんでした。オーストラリアには、自分より大きい人がたくさんいて、服のサイズ展開が広く、みんなファッションを楽しんでいる。「あんたなんかベイビーだよ、他のアジア人と比べたら胸もお尻もあるけど、かっこいいじゃない。」と言われたときに、服の好みがガラッと変わりました。タンクトップやショートパンツが増えたのです。
摩耶子　服の選択肢が突然広がって、どんな気持ちでしたか。
ゆかり　嬉しいというよりも、「今ここで買わないと日本に帰ったら買えない」と焦りました。お金はないけれど時間はあるから、同じ服屋さんで何時間も悩んで、ホームステイ先のママや学校の友達に「またあの服屋さんに行ったの？」なんて言われていましたが。日本での選択肢は、すてきかどうかではなく「着られるか着られないか」だったのに、オーストラリアでは色を選ぶようになり、自分に似合うものを買えるようになって。当時はLLサイズでしたから、今思えば全然大きくなかったのですけれどね。
摩耶子　いつか、ゆかりさんがオーストラリアで体験したサイズを気にせずに服を選べる未来が日本にも来るといいですね。
　今の日本は、当時と比べて服の選択肢が広がったと思いますか？

まだ自分のことを好きになっていく最中かもしれません。

ゆかり　大きいサイズのお洋服自体は増えましたが、日本のプラスサイズのお洋服って、系統が偏っていますよね。かわいらしい系統のものが多くて。もっといろいろな服を着たいから、この偏りは変えたいです。たとえば受注生産といった方法ならば、服の選択肢も広がるし長く着られますよね。

摩耶子　そうですね。ファッションって若い人だけでなく、全ての年代の人が楽しむものだから。

摩耶子　自分の体についてどのように感じていますか。

ゆかり　まだ自分のことを好きになっていく最中かもしれません。人からの賞賛で自尊心を高めてきてはいるものの、自分のことを大切にするのはこれからの課題なのかなと思っています。Today's Woman に出たからこそ、そんな風に思えたのかもしれません。

摩耶子　これまでは違いましたか。

ゆかり　今までは、スリムな人と自分を比べてしまっていました。セクシー女優のお仕事で、他の女優さんのサンプル動画や表紙を見せられて「こういう風に撮ります」と言われることがあるのですが、みんな体型も魅力も違うのに、同じように真似をしなきゃいけなくて。そして、真似しても、どうしてもサンプルの人と自分とを比べてしまう。17年間やってきて、今はこれでいいと思えるようになりましたが、時間がかかりました。

摩耶子　これから自分を大切にしていきたいという段階なのですね。

ゆかり　そうですね。Today's Woman では、他のファイナリストと比べられることがないじゃない。みんなすてきだよ、そのままでいいよって言ってくださるから。

　自分はこれでいいんだって、今思っている途中、成長途中かもしれません。

摩耶子　「ゆかりさんはきれいで自信があってすてき！」と思っていましたが、今のお話を伺うと、ゆかりさんも試行錯誤している最中なのだと励まされます。

ゆかり　自信って最初から持っているものではなくて、成長や努力によって培われるものですよね。堂々として見える人は、きっと努力しているのだと思います。私も才能型じゃないから、やっぱりとても努力してます。グランプリになっても、さらに努力が必要だなと思っていますよ。

摩耶子　世の中がこんなふうに変わってほしいという思いがあれば教えてください。

ゆかり　X（旧Twitter）などを見ていたりするとね、自分のセクシー女優という職業に対して、差別的発言とともに「差別をしているわけではない、区別しているだけだ」という意見が目に入ります。私も以前は「区別だったらいいか」と思っていましたが、Today's Woman に臨めたことをきっかけに、やはり区別だとしても良くないと思うようになりました。 カテゴリー分けをすることが誰かのためには正解かもしれないけれど、誰かにとってはそのチャンスを奪うことになるかもしれません。

　とはいえ、今すぐカテゴリーなしにしてください、ボーダーラインなしにしてくださいっていうのはできないでしょう。それでも差別や区別を無くそうと声を上げる人が多くなればいいし、自分もあげたいなと思います。簡単なことではありませんが、チャンスはみんな平等に欲しいじゃない。はっきりした線を少しずつぼかしていって、最後には境界線が分からないくらいにしていけばいいなと思っています。

　男性だけでなく、同性からの支持も厚いゆかりさん。今回改めて、等身大で優しく誠実なゆかりさんのお話に大変勇気づけられました。今後のゆかりさんのご活躍が楽しみです。お話をお聞かせいただき、ありがとうございました！

プラスサイズモデルの私服チェンジ大作戦

BEFORE

・コーディネートのポイント

古着のオーバーオールでアメカジ風に。トップスや帽子にポップな色味を使うことでアメリカのキッズのようなわんぱくさを出してみました。

・服交換をした感想を教えて！

カジュアルでキュート&おてんばな感じに。今までの自分とは全く違うけど、意外と似合ってたし、気分まで陽気になってたかも……！？

ちょっとこの系統のお洋服ハマりそうです（笑）

・名前 **真姫**
・身長 **160cm**
・スリーサイズ
B122 W109 H124
・好きなファッションの系統
ヘルシーでセクシーなお洋服
・好きな言葉
「Fake it till you make it（意味：成功するまで、そのフリをする）」

BEFORE

・コーディネートのポイント

お洒落上級者っぽいスカーフと、ヘルシーな肌見せ＆ボディコンシャスがポイントです！

海外っぽいコーデが好きなので、その雰囲気を全面に押し出しました♡

・服交換をした感想を教えて！

憧れてはいたけれど自分には似合わないだろうと諦めていたファッションだったので、新しい一面が知れてとっても嬉しかったです。

自分のことをより好きになれました！！

・名前 **未来**
・身長 **158.7cm**
・スリーサイズ
B119 W100 H115
・好きなファッションの系統
カジュアル全般/古着
・好きな言葉
「食べ放題」

クラシックカーでちょっとそこまで

2人のことを教えて！

真姫：こんなに長く話すのは初めてですね。
未来：ですねですね。レッスンぐらいしか、会うことないですからね。
真姫：最初にミクさんに会った時も、事務所に所属して初のモデルレッスンの移動中だったんですけど、他の所属モデルさん達もいい人だよっていうのを教えてくれて、優しい人だと思って安心したの覚えてます。
未来：私は真姫さんのこと、オーラっていうか、グってくるのがあって、うおおってなりました。真姫さんは、すっごい真面目。なんか丁寧だし、真面目だし、自分がこうしたいっていう欲に向けてちゃんと前に進める感じ。レッスンすごい出てるじゃないですか。すっごいなって思ってます。

お互いにメイクもしてみました！

→内側から活力と色気がにじみ出るように、頬にはチークとハイライトをがっつり仕込み、リップはヌーディカラーでぽってりと。
　肌ツヤと血色でヘルシーさを、ヌーディなツヤツヤリップでセクシーさを引き出しました！

→チークを頬、鼻先、鼻背、顎先にのせる事で子供のあどけない感じを演出。口紅はマットなリップでチークに負けない血色が出るようにしています。
　アイシャドウにシルバー系のラメを仕込む事でわんぱくな中にもどこか繊細な大人の女性らしさを失わないように意識しました。

アメリカンわんぱくガール

BETTY.（ベティ）

みんなとシェアハピしたい

BLOOM CREATIVE #1 モデルファイル

皆さんごきげんよう♡ とにもかくにもKumusta ka?ってことでBETTY.です！ BLOOM CREATIVE所属モデルの初期メンであっという間の6年目。つくづく秒で過ぎますね！ 時の流れって。

元はといえば物書きと写真を撮ることが好きな性分。とあるブログで「ぽっちゃり女子の日常」として日記を付け始め、気付けば閲覧数ランキング1位とたくさんの方にご覧いただいて、読者様からのひと声でTwitterに移行したのが、「ぽっちゃり女子のBETTY.」として発信しはじめるきっかけでした。いざ活動してみれば、それまで身近に感じなかっただけで、プラスサイズの社会的な認知を広げるためにと大義を持ってメディア活動する方がたくさんいらっしゃって、自分も発信しながら率先して関わりにいくうちに、関連のコミュニティやイベント、プラスサイズの被写体にお誘いくださる方が増え、個人のつながりでアパレル撮影のお仕事を頂戴する機会にも恵まれました。いくつものご縁との自然な巡り合わせの地続きにあるので「いつからプラスサイズモデルなのか？」と改めて問われると正直謎。商業的なお役目でいえば7年になるでしょうか。

これまでアパレル、企業広告、ドラマ、MVなど色々なお仕事を頂いてきましたが、初のご依頼は大きいサイズのタイツモデル。今でこそ多様性の時代、ダイバーシティにのっとりふくよかな体型的特徴も「いいね！」と各業界で温かく認知されるようになってきましたが、ほんの数年前までは「ぽっちゃり」といえば超マニアックな位置にある印象でマーケットも激狭、ファッションひとつ楽しむにしてもサイズが無い。SNSでのコーデ投稿も少なく、ニーズを高めようにも消費者からの声をお届けしにくいという負のサイクルにありましたから、当時はタイツひとつでも自分サイズでこんな激マブなアイテムがあって、世に広めるお手伝いができるなんて！とそれはそれは感動したものです。

当時から継続してるマインドなのですが自分の活動は、誰かのためにというよりもその根幹は人生の充実という自己満足にあります。それは「ご縁を繋いでみんなとシェアハピしたい」というミーハーなものだけど、プラスサイズモデルをきっかけに大きな特典として、感動を頂いた分、誰かに感動を与えたり誰かの生きづらさを少しでも楽にして、少しでも楽しくなれる道標になれるならこんなにラッキーなことはないですから。

まずはお仕事に役立つスキルアップを目指しながら活躍の場を広げてさらにたくさんの道標を残せるように頑張ります！

BETTY.に一問一答

●**最近買った満足度の高いもの**
フィリピンの別荘(建設中)

●**尊敬する人**
最推しの祖母。
あたしを生かしてくれた第一人者
“焼け野の雉夜の鶴”
自分にとって紛れもない恩人偉人です。

●**モデルになって変わったこと**
このふくよかな体型も素敵な魅力
であると気付かせてくれたこと

モデル仲間に聞きました！
BETTY.ってどんな人？

色気たっぷり、我が道をゆくお姐さん（真姫）・ポージングが足先から指先まできれいで尊敬しています！周りをよくみて気遣いのできる方です。初めてのレッスンで困ったとき優しく声をかけてくださりました（ましゅまろ）・魅力の塊（Andrea）・お洒落で、独自のすてきなエネルギーを放つ方。情深いお人柄にファン多し！（羽雪）・かわいいですホントにかわいいです♡（船登哀衣）

いろいろな表情を
見せてくれるBETTY.

Height : 163 cm
BWH :124 - 104 - 125cm

アンドレア
Andrea

BLOOM CREATIVE #2
モデルファイル

HOLA(オラ)!ペルーと日系のダブルのアンドレアです

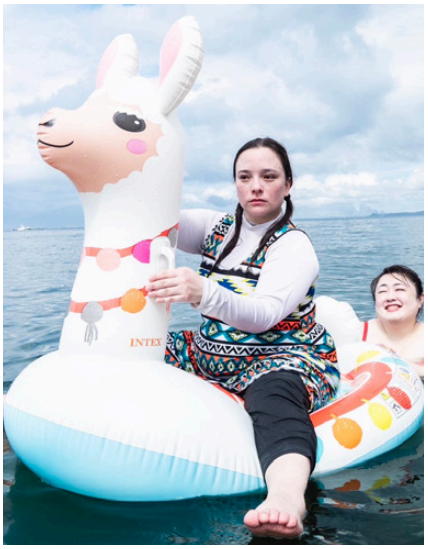
育ちは日本とペルー半分半分で日本語とスペイン語が話せます。いわゆるネイティブバイリンガルです。性格は明るく、チャレンジ精神旺盛でイベント企画が大好きです。100名規模のイベントを自ら企画して実行したり、とにかくみんなで楽しいことをするのが大好きです。

もともとこんなに明るかったわけではありません。

小学生の頃（日本で育っていた頃）モデルを夢見ていましたが成長するにつれ私がなれるわけがないと思うようになり、それどころか中学校では体を隠したくて真夏でも長袖のジャージを着るようになりました。日本ではかつての私のように自分を許せない人が多いように感じます。幸い私はペルーへ行ったり、いろいろな価値観に触れたり、沢山の経験をしていく中で、人生で1番長くお付き合いをしていかなければいけない相手は自分自身だということに気付き、自分を好きになる努力をしていった結果、少しずつ「私、そんなに悪くないかも？」と思えるようになり、今ではモデルをやれるほど自分を愛せるようになりました。

このような経験から、私がいろいろなことにチャレンジして辛い部分を引き受けていくファーストペンギンになれればと思います。その後、つなげてくれる皆さんがもっと活躍できて、より住みやすい社会になれば良いなぁと思っています。お仕事面ではいろいろな現場を経験させていただいています。毎回とても楽しく、刺激的でこのお仕事がとても好きです。プラスサイズという枠はまだまだ狭く、魅力的なライバルも多いので大変ですが、新しいお仕事にどんどんチャレンジしていきたいと思っています。仕事ください！！笑

そうやっていくうちにサイズ関係なく、魅力的な人として活躍でき、世間でもプラスサイズが特別なことではなくなる日が来ることを夢見ています。



海で事務所社長に
後ろを押してもらうAndrea

Height : 150 cm
BWH :111 - 94 - 122cm

Andreaに一問一答

●座右の銘
同じ川、違う水。
毎日同じように見える川でも中を流れている水は同じじゃない。同じように見える毎日も流れている時間は同じじゃない。その瞬間瞬間を大切にしなくてはと思わせてくれる言葉です。

●モデル以外の経歴
20代はデザイナーとして働いていました。今はBAR経営をしています。

●趣味
焼酎の勉強

●特技
人と仲良くなること

●モデルになって変わったこと
いろいろなお仕事をやれたことと、日常生活でもモデルらしさを意識するようになったこと。

モデル仲間に聞きました！
Andreaってどんな人？

天真爛漫キラキラ太陽（未来）・人間味あふれる、愛情深い先輩（真姫）・照れ屋さんだけど、素直な気持ちを相手の気持ちにも寄り添って伝えてくれる方です！（南絵茉）・明るくアクティブでキュートなひまわりみたいな子。その行動力を自分だけでなくみんなにも分けてくれるとても優しいBLOOMのお姉さんの1人（弓月彩楓）・どの表情でもきれい過ぎマス！（船登哀衣）

未来のハッピーファクトリー

ースポーツで生まれるぽっちゃりさんの悩みに寄り添い隊ー

未来とは何者か

NAME 未来（MIKU）	特技　野球、イラスト、小型船舶2級
1997／06／21	MBTI ENFP （運動家）
B119 W100 H115	自称　ブルベ冬・骨格ストレート

幼少期から体を動かすのが好きで、小学校高学年から中学3年生まで5年間野球に専念。高校生活では野球部のマネージャーとして部活動に取り組みました。そこから生涯スポーツに興味を持ち、約7年間スポーツ用品店に勤めたスポーツ大好き未来が、ぽっちゃりさん特有の悩みに寄り添い、スポーツの楽しさや理解を広めるため連載していきます。

幸せの生産地ハッピーファクトリーへようこそ！！

私の経験がこのコーナーを通して、ご覧いただいた皆さまの悩み解決、スポーツの楽しさを知るきっかけになれば幸いです。

心身ともに健やかに過ごす手助けができるよう取り組んでいきます！！

生涯スポーツとは

“『誰もが、いつでも、どこでも』気軽に参加できる”
スポーツを指します。

「個々が自分のペースでスポーツを楽しむことで生活に豊かさをプラスする」それが、生涯スポーツです！

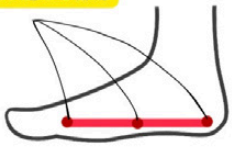
ぽっちゃりさんの地味な悩み

＜足の裏の痛み＞

・起きた後の１歩目が痛い
・かかとを着くのが痛い
・動いていると徐々に痛みが引く
・長時間の運動で痛みが強くなる

それってもしかして
“足底筋膜炎（そくていきんまくえん）”かも！！！

炎症が起こる部分



主な原因

運動不足、過度な運動
足裏のアーチの崩れ
肥満や加齢
ふくらはぎ、アキレス腱が硬い
足を引き上げる筋力が弱い

足底筋膜炎には、歩き方・足首の歪み・ふくらはぎの筋肉が硬いなどさまざまな要因があります。その分、日々のケアや足に合う靴を履くなどの対策が大切です。

まず、足の裏のアーチ（土踏まず）は地面に足を着く時のクッション材の役割をしています。そのため、酷使するとアーチのバランスが崩れて足の裏の痛み、関節痛、外反母趾などの変形を引き起こす可能性があります。これらは立ち仕事、通勤通学などスポーツをするだけではなく、日常生活でもおこります。なので、無理をせず仕組みを理解してあげることが重要です。

体に痛みが出た場合、自己判断に頼らず安静にする、病院にかかるなどご自身の状態を理解することが１番です。

そうした上で、日々体や体調に向き合い自分でる “セルフケア”を行っていきましょう！！

オススメアイテム

主なケア方法は、ストレッチ、物理療法、テーピングやインソールの使用です。
その中で私がオススXしたいのはインソール**（ザムスト）**です。普段履いているシューズのインソールを変えるだけで、重心バランスを整え、アーチを支え、疲労の軽減につながります。

インソールの他にも土踏まずにサポート機能のついたソックス**（TABIO）**、クッション性の高いシューズ**（ホカオネオネ）**も日々の疲労軽減を助けてくれるのでオススXです！！

・ザムスト　インソール
フットクラフトスタンダード
￥5,280（税込）

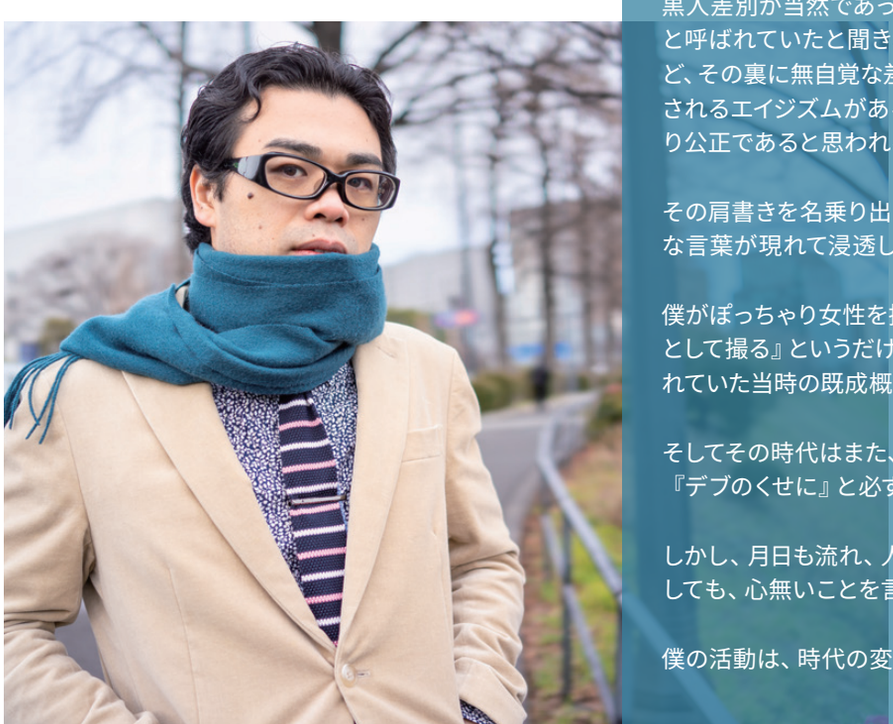
・TABIO
レーシングラン
￥1,870（税込）

・ホカオネオネ
BONDI8
￥25,300（税込）

BLOOMING 創刊に寄せて

時代の
移り変わりを
間近で見てきた
者として

BLOOM CREATIVE 創設者 Poko



写真は、2013年の2月、僕がプラスサイズモデルのキャスティングでモデルさんをオーディションに引率した際、その中のひとりが撮影してくれたものです。

撮ってくれた彼女は、その後、日本のボディポジティブムーブメントを牽引していく一人になりました。

当時、ボディポジティブのムーブメントは今よりも更に草の根運動的な側面があり、とても狭い界隈で、僕の周りには、その後の業界を担う人材がギュッと詰まっていたのでした。

そしてその頃から徐々に手掛けていたプラスサイズ女性のキャスティング業務が、その後のBLOOM CREATIVEの設立に繋がっていきます。

僕は『ぽっちゃり女性専門写真家』として活動しているのですが、当時すでに活動はしていたものの、覚悟を決め、恐る恐る写真家を名乗り始めたのも、この写真の撮られた頃、この前年の2012年のことでした。

肩書を決めるにあたり、当時は『プラスサイズ』と言う言葉も一般的ではなく、ふくよかな体型に対して肯定的な印象のある『ぽっちゃり』と云う言葉を選びました。

『プラスサイズ』などの新しい言葉の浸透は予見出来ませんでしたが、『ぽっちゃり女子』ではなく『ぽっちゃり女性』と云う言葉の選択をしたのは、『女子』と云う言葉に男尊女卑の匂いを感じたからです。

黒人差別が当然であった頃のアメリカでは、黒人男性は老人になっても『Boy』と呼ばれていたと聞き、『女子』と云う言葉は耳障りがよくポップではあるけれど、その裏に無自覚な差別的要素があるのではないか、また若い女性がもてはやされるエイジズムがあるのではないか、と感じ『女子』ではなく『女性』というより公正であると思われる言葉を使うことにしました。

その肩書きを名乗り出した後『プラスサイズ』や『ナチュラルサイズ』など、様々な言葉が現れて浸透し、本当に時代も変わったと感じています。

僕がぽっちゃり女性を撮り始めた頃は『ぽっちゃりした女性を普通に可愛い女性として撮る』というだけでもとても先鋭的であり、その活動は痩身こそ美しいとされていた当時の既成概念に対するアンチテーゼでありました。

そしてその時代はまた、魅力的な女性としてぽっちゃり女性が自身を発信すると『デブのくせに』と必ず言われるような時代でもありました。

しかし、月日も流れ、人々の意識も変わり、ふくよかな女性が自身の魅力を発信しても、心無いことを言われることは相当に減ったのではないでしょうか。

僕の活動は、時代の変化と共に既にひとつの勝利を得たのです。

さて、これからは、その魅力を文化的に認められ始めた彼女達が、その魅力をもってして、モデルとして仕事をし、金銭や名誉を得る社会的行為により、この社会に認められていく段階だと僕は感じているのです。

『BLOOMING』には、その段階を担う存在になって欲しいと僕は願っています。

2024.10.11 Poko

Editor's Note

「私がここへやってきたのは、あなたは美しいということを証明するためです。私は、自分の美しさに疑いを持ったことがありません。それは、誰に何を言われようと、私のことを認めてくれる家族がいたから。中でも一番に私を認めてくれた父は、先月天国へ旅立ちました。これからは私が、あなたは美しいと証明し続ける存在になります。」

これは、2022 年に出場した 第 2 回目となるプラスサイズのビューティーコンテスト Today's Woman で私が話したスピーチの内容です。

その翌年、観客として訪れた Today's Woman にて現在所属しているプラスサイズモデル事務所ブルームクリエイティヴの代表 Yasukoさんから名刺をいただいたことがご縁となり、プラスサイズモデルとしての活動をスタートさせました。

「あなたの美しさを証明する」とはどういうことだろう、具体的には何をすればよいのだろう、スピーチで話したあの日から今もなお考え続けています。

こうして日々、プラスサイズモデルとして美しく豊かな女性たちに囲まれていると、「多様性」という前置きをつけなくとも私たちははじめから美しさを持っているのだと実感できます。

そんな中、この「BLOOMING」というプラスサイズモデルの雑誌を新しく作り、そこで編集長をやらないかとお話しをいただきました。新たな媒体で、プラスサイズ女性の純粋な美しさを発信していくこと。これこそが「あなたの美しさを証明する」ために私が今やるべきことだと感じました。

とはいえ、雑誌を作ることに関してまったく初心者の私です。文字通り右も左も分からず、周りの人の協力を得ながら制作チーム一丸となってようやく完成させることができました。関わってくださったすべてのみなさま、そしてこの「BLOOMING」を手に取りここまで読んでくださったあなたに深く感謝を申し上げます。

「BLOOMING」の目的は、すべての人が花ひらくように自分の美しさを楽しめる世の中にすることです。

季節はずれの水着の表紙、そしてここに紫陽花の花を添えて。

2024年11月
BLOOMING 編集長　藤 摩耶子
Mayako Fuji

すべての人が花開く
自分の美しさを楽しむための
フリーマガジン
https://pocchari-model.com/BLOOMING.html

NEXT ISSUE

『モデルレッスン特集』
『ファッションショー出演記録』

Next Spring Release.

モデル募集

BLOOM CREATIVE ではプラスサイズモデル・タレントを随時募集しております。右のQRコードを読み取り、必要事項をご入力の上ご応募ください。お待ちしております。
BLOOMINGに掲載されるチャンスも！

広告募集

フリーマガジン「BLOOMING」では、広告掲載を希望するスポンサー様を募集しております。
info@pocchari-model.comまでご相談をお待ちしております。

BLOOMING
Vol.01 Winter 2024

2024年11月25日発行
発行元：BLOOM CREATIVE
発行者：Yasuko

制作チーム
藤 摩耶子
未来
Yasuko

未来
（モデル 兼 editor）

「BLOOMIG」に携り、私にとってまた新たな経験が始まりました。
この取り組みを通し我々の活動が、プラスサイズとは何か、知っていただけたら幸いです。見つけてくれたアナタの人生のロールモデルになれるよう、走り続けて行きたいと思います。

発行日 : 2024.11.25
発行者 : Yasuko (Bloom Creative)

BLOOMING

The plus-size women on the front and back covers are models affiliated with Bloom Creative, the publisher.